

## 和泉を歩こう！ 府中エリア



### 府中エリアは こんなところ

府中エリアは和泉市の北部に位置し、「和泉」という地名の由来であるといわれる「和泉清水（いずみしみず）」や、日本有数の弥生時代の環濠集落（かんごうしゅうらく）である池上曽根遺跡（いけがみそねいせき）など、有名な史跡があります。

古代、各国の役所は「国府（こくふ）」と呼ばれ、中世には「府中」などと呼ばれるようになります。府中エリアはその名がしめすとおり、和泉国の中心地といえるエリアだったと考えられています。

一方、府中エリアに隣接する信太山周辺には、大正期に大阪城法円坂（ほうえんざか）から移転してきた野砲兵第4連隊（やほうへいだいよんれんたい／現・陸上自衛隊信太山駐屯地）や、信太山忠霊塔（しのだやまちゅうれいとう）など、和泉と軍隊のつながりを知ることができる場所も残されています。

## ② 泉井上神社 府中町

いずみいのうえじんじゃ



和泉五社惣社本殿（国重要文化財）

むかしむかし、神功皇后（じんぐうこうごう）が新羅（しらぎ／朝鮮半島にあった国）へ攻め入る途中に、この地に立ち寄った際、一夜にして清らかな泉がわき出してきました。この泉をたいへんありがたいものだとしておまつりしたのが、泉井上神社のはじまりだと伝えられています。この泉は「和泉清水（いずみしみず）」として、大阪府史跡に指定されています。現在、泉は枯れていますが、江戸時代には、あたりの田んぼをうるおすほどの水量があったそうです。

境内にある和泉五社惣社（いずみごしゃそうじゃ）は、

## ① 御館山公園 府中町

みたちやまこうえん

泉井上神社の小栗街道（おぐりかいどう）を挟んだ西側にある公園です。このあたりは「御館（みたち）」という地名で呼ばれています。

1966（昭和 41）年の発掘調査で見つかった奈良時代の建物の跡は、和泉国府に關係するものだと考えられています。

また、江戸時代には泉井上神社の御旅所（おたびしょ）でした。御旅所とは、祭のときにおみこしが休憩するための場所です。

公園内には、「和泉国府庁跡」と書かれた石碑が建てられています。



和泉国府跡の石碑

Q 「泉」だけでも  
「いずみ」と読めるのに、  
どうして「和泉」と書くの？

A 泉井上神社のありがたい泉にちなんで、「泉」と国名が定められたと伝えられているんだけど、和銅6（713）年の詔（みことり／天皇の命令）によって、諸国の名前を漢字2文字で表すことになったんだ。そこで、よい意味を持つ漢字「和」をつけて、「和泉」と書き表したんだよ。「和泉市」という市名は、この「和泉国」に由来しているよ。



和泉国の大鳥（おおとり）神社〔堺市〕、泉穴師（いずみあなし）神社〔泉大津市〕、聖（ひじり）神社〔和泉市〕、積川（つがわ）神社〔岸和田市〕、日根（ひね）神社〔泉佐野市〕の5つの神社を合わせておまつりしています。和泉国府（こくふ）に赴任した国司（こくし）は、この5社を順番にお参りすることになっていましたが、手間をはぶくため、この和泉五社惣社が建てられました。

和泉五社総社の本殿は、慶長10（1605）年に豊臣秀頼（とよとみひでより）によって再建されたもので、国の重要文化財に指定されています。

# 府中エリアマップ



500 0 500 1000 1500 2000m

## 和泉を歩こう！ 府中エリア

# 和泉市の 歴史と文化財 マップ

### 府史跡 和泉清水

和泉の地名の由来となった泉井上神社の清水。  
和泉市を象徴する史跡です。



弥生時代の歴史が眠る街

### 和泉市の文化財ウェブサイト



日本語

英語  
(English)

韓国語  
(Korean)



中国語・簡体  
(Simplified Chinese)

中国語・繁体  
(Traditional Chinese)

ウェブサイトアドレス <https://izbun.jp/>

発行：和泉市文化財活性化推進実行委員会  
発行日：2019年3月31日



平成30年度 文化庁文化芸術振興費補助金  
(文化遺産総合活用推進事業)



### ③ 史跡 池上曾根遺跡

しせき いけがみそねいせき

池上町

和泉市池上町から泉大津市曾根(そね)町にかけて広がる、全国でも指折りの弥生時代の遺跡です。まわりに溝をめぐらせたムラ(環濠集落／かんごうしゅうらく)で、その直径は300mにもおよびます。

1995(平成7)年には、集落の中心部の発掘調査で、弥生時代最大級の建物と井戸が発見されました。これらは、池上曾根史跡公園内に復元されています。

また、池上曾根史跡公園の近隣には、日本でただ一つの弥生時代専門の博物館である、大阪府立弥生文化博物館や、体験学習ができる池上曾根弥生学習館(泉大津市)もあり、よりくわしく知ることができます。

#### 池上曾根史跡公園

- 所在地 和泉市池上町・泉大津市曾根町
- お問合せ(電話・ファックス) 0725-45-5544
- 開園時間 午前10時～午後5時  
(入園は午後4時30分まで)
- 休園日 月曜日(祝日の場合は翌日)、  
祝日の翌日(土日は開園)、  
年末年始
- 入園料 無料



いずみの高殿とやよいの大井戸

### Q 弥生時代最大級の建物と井戸は、何のためにつくられたもののなの？

**A** ささまざまな意見があるけど、建てられた場所や巨大さから考えると、実用的なものではなく、シンボリックな役割や祭りをを行う上での役割を持つ、特別な建物だったのではないかと考えられているよ。  
みんなも実際に池上曾根史跡公園に来て、いろいろ推理してみてね！

### ⑦ 軽部池

かるべいけ

小田町

かつて和泉には法隆寺の領地がありました。法隆寺の歴史と財産を記した奈良時代の史料に、法隆寺が所有する土地に関する項目があります。そこには、和泉郡の軽郷(かるごう／軽部郷のこと、いまの小田町のあたり)のため池について書かれ、これが今も残る軽部池ではないかと考えられます。

軽部池は岸和田市との市境にあり、条里地割(じょうりちわり)に沿って200m×300mのきれいな長方形をしています。

条里地割は碁盤(ごばん)の目のように田を規則正しく正方形に分けたものを指し、7世紀後半に各地で整備されました。軽部池も7世紀後半に完成したものではないかとみられています。



空から見た軽部池と条里

### ⑧ 西福寺

さいふくじ

桑原町

鎌倉時代に、奈良の東大寺の復興のために活躍した俊乗坊重源(しゅんじょうぼうちゅうげん)というお坊さんが、桑原町のあたりで生まれたという伝説があり、西福寺はこの重源が開いたと伝えられています。

また、「雷伝説」も有名です。

むかしむかし、お寺の井戸に雷が落ちたとき、村のおばあさんが井戸にフタをして、雷さまを閉じ込めました。おばあさんが「この桑原の地に二度と雷を落とさない」と約束すれば、井戸から出してやろう」と言うと、雷さまはそれを約束し、井戸から逃がしてもらいました。これ以降、桑原には雷が落ちなくなったのだそうです。

雷が鳴ると「クワバラ、クワバラ」と唱えるのは、この昔話に由来するともいわれています。



俊乗堂

### ④ 禅寂寺

ぜんじゃくじ

阪本町

境内に立派な礎石(そせき／柱を支えるための石)が残されています。1966(昭和41)年の発掘調査の結果、法隆寺と同じ形式の建物配置(伽藍配置／がらんはいち)をもつ古代寺院のあとであることが分かりました。この地の有力な一族、坂本氏の氏寺(うじでら／一族の繁栄の祈願や弔いのために建てられた寺)と考えられ、坂本寺跡と呼ばれています。

坂本氏は、和泉を拠点とする在地の氏族から中央貴族にまで成長した氏族です。6世紀末から7世紀はじめ、外交の担当者として活躍した坂本臣(おみ)糠手(ぬかて)という人物のころに、氏族としての地位を高め、貴族の仲間入りを果たしました。



どうしんそ 坂本寺の塔心礎(府指定文化財)と現本堂

### ⑨ 妙泉寺

みょうせんじ

和気町

室町時代に創建された日蓮宗(にちれんしゅう)のお寺です。

境内にはイブキの大木や、逆修供養(ぎやくしゅくよう／生きていた自分の死後のために、または自分より先に亡くなった子や孫のために祈りすること)のために享禄2(1529)年に建てられた市内唯一の石造多宝塔(せきぞうたほうとう)、戦国武将の三好実休(みよしじつきゅう)の供養塔などがあります。本堂には室町時代に作られた日像上人(にちそうしょうにん)像があります。



三好実休供養塔

### ⑤ 郷荘神社

ごうしょうじんじや

阪本町



郷荘神社本殿 市指定文化財

阪本町・東阪本町・観音寺町・芦部(あしべ)町・桑原町・一条院町・今福町・寺門(てらかと)町の8町が合同でおまつりする神社です。

いつ建てられたのかは分かりませんが、正応2(1289)年に書き写された史料に登場することから、中世にさかのぼることがわかります。

現存する本殿は、神社の記録によると、大永年間(1521～27年)に建てられたと伝えられています。天文10(1541)年に建てられた多治速比売(たじはやひめ)神社本殿(堺市・重要文化財)と手法が似ており、同時期の建築であると考えられています。

現存する木造建築では和泉市最古のもので、市の指定文化財になっています。

### ⑩ 伯太藩陣屋跡

はかたはんじんじやあと

伯太町

江戸時代、和泉には伯太藩という小さな藩があり、伯太村や黒鳥村、春木川村などを治めていました。

伯太藩の主である大名渡辺家は、享保13(1728)年に伯太村にやって来て、この地に陣屋(じんや／城を持たない規模の小さな大名の屋敷)を置きました。

その場所は、小栗街道(おぐりかいどう／熊野街道)から現在の大阪市立青少年野外活動センターのあたりだったようです。渡辺家は、家臣らとともにこの陣屋で生活し、政治を行っていました。

残念ながら、当時のおもかげはほとんど残っていませんが、陣屋があった場所の一角に「伯太藩営址」の碑が立っています。また、堺市の小谷城郷土館の表門は、明治期に伯太陣屋から移築されたものです。



伯太藩営址の碑

### ⑥ 旧野砲兵第4連隊(陸上自衛隊信太山駐屯地)

きゅうやほうへいだいよんれんたい

伯太町・黒鳥町

現在の陸上自衛隊信太山駐屯地(しのだやまちゅうとんち)です。1919(大正8)年に大阪城法円坂(ほうえんざか)から野砲兵第4連隊(やほうへいだいよんれんたい)という部隊が移ってきたものです。

兵士たちが生活する建物のほか、訓練場や病院などもあり、900人もの兵士が常駐し、野砲(大砲)をひく馬が500頭もいました。

いまでも、将校集会所(今の修史館／しゅうしかん)などの戦前の建物が残っています。春に開かれる創立記念行事で見学することができます。



修史館(旧野砲兵の将校集会所)

### ⑪ 黒鳥山公園

くろとりやまこうえん

黒鳥町

桜の名所として有名な黒鳥山公園ですが、地域と戦争・軍隊とのかかわりを知ることができる場所でもあります。

公園内には、明治天皇が黒鳥山から陸軍大演習を観覧したことを記念する「天皇駐蹕碑(てんのうちゅうひつひ)」(1901年建立)、野砲兵第4連隊と地元市町村が共同して建てた陸軍墓地である「信太山忠霊塔(ちゅうれいとう)」(1942年建立)が残っています。また、公園の入口には、反戦運動を行った軍人「阪口喜一郎顕彰碑(さかくちいきちろうけんしょうひ)」が建っています。



阪口喜一郎顕彰碑



信太山忠霊塔



天皇駐蹕碑